

新クリーンセンター建設事業に係る令和元年度事後調査報告書の概要について

4 新クリーンセンター建設事業

(1) 事業の概要

① 事業者	佐久市・北佐久郡環境施設組合
② 事業実施区域	佐久市
③ 事業の内容	廃棄物焼却施設の建設
④ 事業の規模	処理能力 110 t/日
⑤ 条例該当	第1種事業：ごみ焼却施設（処理能力4 t/時（96 t/日）以上）
⑥ 関係地域	佐久市、小諸市、軽井沢町及び御代田町

(2) 事業の経過

H24. 7	環境影響評価方法書公告
H26. 4	環境影響評価準備書公告
H27. 4	環境影響評価書公告
H28. 6	対象事業着手報告書の提出

(3) 事後調査報告書の概要

- 令和元年度は、施設本体建設工事を実施（令和2年度中の供用開始を予定）。工事中における大気質、水質、水象、植物、動物の調査結果等を報告。

○ 大気質

- ・建設機械の稼働による影響が最大となる時期に、二酸化窒素、一酸化窒素、浮遊粒子状物質の調査を対象事業実施区域内の1地点で実施。
- ・二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の事後調査結果（日平均値の最大値）は、いずれも環境影響評価時の予測結果を下回った。

○ 水質

- ・工事の実施（舗装工事、コンクリート工事）に伴うアルカリ排水について、事業の排水を放流する2地点（工事現場の場外排水路、湯川合流点）で水素イオン濃度及び流量を測定。

調査項目	工事現場の場外排水路	湯川合流点	環境保全のための目標
水素イオン濃度	8.0	8.0	6.5以上8.5以下

○ 水象

- ・観測井戸2地点、既存井戸1地点において、各月1回、地下水位を測定。
- ・環境影響評価時の調査結果とほぼ同様の水位であり、地下水位の低下は見られない。

○ 植物

ヤエガワカンバ	移植成木は、一部の枝が枯れ、新たなキノコも発生。播種個体は、H27・1個体、H28・1個体、H29・1個体、H30・150個体が順調に生育。H30移植幼木3個体も順調に成長。床蒔きは発芽個体が消失したため生育確認中止。
オニヒョウタンボク	移植成木は、一部個体の葉にカビによる白斑や虫の食痕が認められたが順調に活着。播種個体は、H27個体枯死、H29・1個体生育、H30未発芽。挿し木個体はH29・1個体、H31・2個体が生育。R2.3に追加で挿し木を実施。
ギンラン	H25生育場所、H27、28移植場所では確認できず。H29確認地点周辺に生育。
ノジトラノオ	個体保護のためのロープ張りの内外で21個体を確認（開花後の花穂2個体）。少し離れた場所に新たに8個体の生育を確認。
ヌマガヤツリ	粉塵付着による影響が懸念されたが、粉塵の付着は見られず151個体生育。
ナガミノツルキケマン	H28に3個体を移植した地点で28個体（H30:22個体）の生育を確認。生育範囲も拡大し、種子も多数確認。粉塵による影響は見られない。
キクタニギク	対象事業実施区域の直近で新たに1個体の生育を確認。やや離れた場所でも約25個体が開花。生育状況に異常はなく、粉塵等の堆積も見られない。
ミズオオバコ	工事排水温度による影響が懸念されたが、計52個体の生育を確認。工事排水は生育地に排出されないことから、影響はないと考える。
イヌハギ	粉塵付着による影響が懸念されたが、粉塵の付着は見られず順調に生育。

○ 動物

ベニモンマダラ	<ul style="list-style-type: none">・食草のクサフジの移植先で植被面積を測定。H29:約7.8m²、H30:約17.0m²、R1:約17.9m²と面積は拡大している。・ベニモンマダラの成虫は県道草越豊昇佐久線法面（クサフジ自生地）を除く調査地点で継続的に確認。
クリイロベッコウ	移植後の調査を実施。移植先で生貝、死貝を確認。
希少猛禽類	ハチクマ、ハイタカ、サシバ、クマタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウの生育が確認され、工事に対する警戒行動等は確認されなかった。中型猛禽類の巣を新たに確認したが、既知の古巣を含め繁殖は確認されなかった。
水生生物等	工事排水に伴う水温の変化による影響が懸念されたが、工事排水は少量であり、また、水生生物等の主な生息環境である湯川に直接排水しなかったことから、影響は極めて小さいと考える。